

私たちは忘れてはならない。  
そして真実を知って語り継ごう！  
感謝とともに。スリランカよありがとう。

ジュニウス・リチャード・ジャヤワルダナ(1906~1996 第二代大統領)



日本を救ってくれたJ.R. ジャヤワルダナ大統領を称えよう！  
いざ、月夜野に **集結!**  
どなたでも参加できます

■日時

7月21日(土) 15:00~

7月22日(日) 15:00~

式典: 7/21 15:00~

■場所

群馬県利根郡みなかみ町後閑1967-1

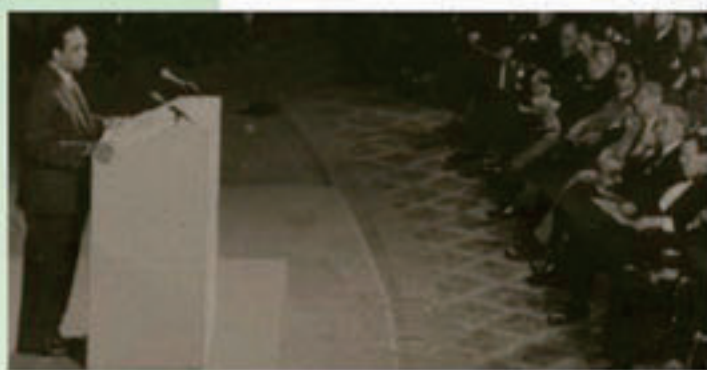


■主催

・ペルポラビパッシ財団 理事長 ペルポラビパッシ

■協力

・駐日スリランカ大使 ダンミカ ガンガーナート ティサーナーヤカ  
・経営者同友会 会長 下地常雄 ・ブータン王国吊誉総領事 徳田ひとみ



サンフランシスコ講和会議でのジャヤワルダナ大統領の演説

戦後サンフランシスコ講和会議にて、日本の主権を擁護する大演説により、アメリカやイギリス、ソ連(ロシア)・中国からの分割占領を回避。そして戦後初めに国交を結んだのもスリランカです。J.R. ジャヤワルダナ大統領の慈悲の心と、世界に屈しない勇気があり、今の日本があると言っても過言ではありません。

ジャヤワルダナ大統領の演説が戦勝国の代表の心を打ち、日本占領に対する考えを変えました。そして、日本が国際社会に復帰する道すじをつくったと言われていいます。条約締結後、世界でいち早く外交関係を結んだのがスリランカだったのです。

J.R. ジャヤワルダナ大師(ブッダ)のメッセージ、「憎しみは憎しみによっては止まず、ただ愛によってのみ止む」とし、第二次世界大戦後の対日戦後賠償を慈悲の心で放棄してくださいました。日本がアジア諸国民の中でただ一人強く自由であった時、我々は日本を保護者として又友人として仰いでいた時に、日本に対して抱いていた高い尊敬の為でもあり、日本に最後まで好意を抱いておりました。

ジャヤワルダナ大統領は、1995年、死去に際し献眼、角膜提供をされ、「右目はスリランカ人に、左目は日本人に」との遺言により、片目は日本に贈られました。私たちは、今こそ真の歴史を学び、再認識し、正しい真実を後世まで伝えて行かなければなりません。現在、日本にいらっしやるスリランカの方々を力合わせて、偉大なJ.R. ジャヤワルダナ大統領の荣誉と功績を称えていきましょう。

【日本スリランカ・ビジネス・フォーラムにおける安倍総理スピーチ】(首相官邸HP 平成26年9月7日)より抜粋

「日本・スリランカ・ビジネスフォーラム」にお集まり頂いた皆様、こんにちは。アーユボーン。安倍晋三でございます。一言ご挨拶申し上げます。私は、先ほど、首都のスリジャヤワルダナプラコッテを訪問しました。コロンボも大変素晴らしい街ですが、私は、日本の総理として、この首都の名前をしっかりと胸に刻まねばならないと考えています。皆様よくご存じのとおり、1951年のサンフランシスコ講和会議において、日本の主権を擁護する演説を行って下さったのは当時のジャヤワルダナ・セイロン蔵相でありました。

今日の日本という「国のかたち」があるのは、その演説の大きな後押しを受けてのものです。後に大統領となられた、この偉大な政治家の名前を冠した、「スリ・ジャヤワルダナ・プラ・コッテ」は、日本人にとって特別なものなのです。

